

平成 23 年 5 月度県内産業景気動向調査結果

この調査結果は、中小企業庁の指定事業に基づいて設置された山口県内の情報連絡員 60 人に、本会が新たに選んだ 20 人を加えた 80 人の連絡員より業界動向を把握した結果です。

山口県の主要指標 DI 値（平成 23 年 5 月末現在）

※DI 値とは、前年同期に比べ「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値です。

業界の景況 （＜好転＞－＜悪化＞＝＜DI 値＞）

前年同月比は、**好転：0.0%** **悪化：60.0%** **DI 値：▲60.0%** ポイント

売上高 （＜増加＞－＜減少＞＝＜DI 値＞）

前年同月比は、**増加：8.8%** **減少：58.8%** **DI 値：▲50.0%** ポイント

収益状況 （＜好転＞－＜悪化＞＝＜DI 値＞）

前年同月比は、**好転：3.8%** **悪化：58.8%** **DI 値：▲55.0%** ポイント

山口県の業種別 DI 値(業界の景況)（平成 23 年 5 月末現在）

 30 以上	 10～30 未満	 10 未満～▲10	 ▲10 超～ ▲30 未満	 ▲30 以上
----------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------

食料品	織 維 工 業	木材・ 木製品	印 刷	窯業・ 土石製品	一 般 機 器	輸 送 機 器	全 製 造 業
▲66.7	▲50.0	▲33.3	▲100.0	▲50.0	▲40.0	▲100.0	▲54.5
							

卸売業	小売業	商店街	サービ ス 業	建設業	運輸業	全 非 製造業
▲60.0	▲55.6	▲75.0	▲53.8	▲55.6	▲100.0	▲63.8
						

全 体
▲60.0


特記事項（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）

食料品	小麦粉をはじめとする原料価格の高騰が止まらない。価格への転嫁が難しく、現在は様子を見ている。今のところ、県内の大手の商品や、有名な商品の値上げ等価格の改定は聞いていない。	パン・菓子製造業
	GW期間の前年同時期の売上比較（4/29—5/08）では+7.4%と大幅に増加。5月は5/21時点でほぼ昨年トレンドに乗ってはいるものの、例年より天候が安定せず、雨天時などの来館数が落ちている。外販は、横浜地区の寿司チェーンへの鮮魚供給開始や紀ノ国屋フェア（首都圏7店舗5/18～5/24）など首都圏を中心に大幅増。POSレジシステムの入替え、館内照明配線のリニューアル、共用部空調機の増設、大型冷凍庫の増設など、設備関係で大きな出費となった。夏までには、館内照明のLED化も実施の予定。	水産食料品製造業 萩市
	東北大震災の自粛が今後の消費にどの様に影響していくかが不安。夏季の商戦に向けて景気が回復するのか懸念している。	水産食料品製造業 下関市
繊維工業	組合全体として震災の影響はない。	帆布製品製造業
	震災以降、資材の遅れがあったが、落ち着いた。依然として国内生産の高価格・高付加価値商品の売れ行きが悪く、低価格商品への消費志向が続いたままで、売上は苦戦している。コストダウン要望が強く、受注単価が低下している為、今後は生産を海外にシフトしなければ生き残れない状況となっており、国内生産の縮小を検討している。福島原発事故による、外国人実習生の帰国希望は送り出し国の担当が来日し、安心である旨の説明を受け、帰国は取り止めとなった。	下着類製造業
	組合員企業の関連会社が民事再生の申請をしたため、影響が出てくると思われる。	外衣・シャツ製造業 山口市
	予想通り、連休明けは受注が大幅減少。6月もかなり厳しくなる見込み。	外衣・シャツ製造業 下関市
木材・木製品	震災の影響で、木造建築についての耐震性に問題があるかのような風評により、好転の兆しが無い。	製材業・木製品製造業 下関市
	今月は麻郷小学校の材料受注ができ昨年よりは良いが、全般的な景況は悪い。	製材業・木製品製造業 岩国市
印刷	東日本大震災で印刷用紙の供給にバラツキが出ており、用紙価格の値上げが他県から聞かれ、山口	印刷

	県でも近いうちに値上げの可能性はある。	
窯業・土石製品	周南地区・北西部地区の出荷量が増加したが、他の4地区は減少している。全体では対前年同月比94%の出荷。東北地方の復旧復興が、本格化した時点での、セメント・骨材等の資材調達が懸念材料である。	生コンクリート製造業
	出荷量については、対前年比；骨材：94% 路盤材：90% 再生材：89% 全体では、対前年同月比：92%。出荷量減少の要因は、上関原発の埋立工事分の出荷が無くなったためと、官公庁の入札がストップしたためである。	砕石製造業
一般機器	業況順調に推移	宇部市
	東日本大震災の影響による部品調達の逼迫状況から一部改善は見られるものの、コストアップ傾向は継続している。今年度下期以降については、復興等による回復は期待できるものの先行きは不透明である。	柳井市
	東日本大震災の影響による受注減。	下関市
	震災の影響で、マツダ・防府工場の減産の影響が出ており、悪化している。ポンプ・圧縮機等々は好転、建材・鉄骨は好調、鉄鋼の先行きは不透明、その他は変っていない。	防府市
	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災の間接的影響は、自動車以外は、いまのところない様子。自動車は難儀が続いている。中近東・インド・ロシア・中国など海外プラント需要は落ち込むという様子はいまのところない。キャンセルもまだ聞こえない。 ・原子力発電所用の高さ10mくらいの汚染水容器を大量に、又、ドラム缶8本入れの枠を何百でもつくるという見積り依頼などはあるけれど県内ではしていない様子。(それとも、つくれないのか?) ・メーカー被災によって、瞬間発生した切削工具欠品は解消。一部資材はまだ品薄のものがあるようなことは聞いているが、実際に不足したことはない。 ・石油は高止まりしているが、今回は不平が不思議に出していない。 	
5月度の受注状況は、4月度に比べ少しは良くなってきており、商談件数も増加してきたが、価格面では相変わらず低価格化が続いている。特にOA機器関連、自動車・ロボット用のモータ関連の受注・商談が多い。6月以降も受注量の少ない状	特殊産業用機械製造業	

	況が続くと思われるが、その中で海外向け案件の商談は増えている。(中国、韓国)	
輸送機器	新造船部門は3年先までの仕事を確保できている。修繕部門は円高により受注は困難で、操業度が下がっている。	船舶製造・修理業
	東日本大震災の影響で、一部素材の供給に遅れが見られるようになり、組立部門の作業量が落ちてきた。また、発送納期の延期や、発注計画の再見直しも迫られるような状況。	鉄道車両・同部品製造業
卸売業	東日本大震災後の資材・部品の納入遅延は、今少しあるが回復してきている。しかし、自粛ムードにより活気が無いのが気になる。被災しなかった我々は、出来る限り活発に行動すべき。	柳井市
	東日本大震災後、食品関係は、原材料不足が要因のようで、一部値上傾向で価格が上昇している。稼働率も低下、原材料も不足、計画的節電等により全般的に景気が低迷し、消費の伸びも心配され、今後の見通しは不安定。	周南市
	市内にはドラッグストアが次々に出店している。組合員企業の中には、本業とは別分野の事業へと展開をしているところもある。	防府市
	東日本大震災の影響で、商品が品薄になり、売上が減少。	山口市
	各業種とも前年より売上が減少しており、特に建設関係は、公共工事の減少に伴い今後の対策に苦慮している。又、ガソリン価格が前年より10当たり約20円上昇しており、配送経費が高騰し経営を圧迫し、固定経費の削減も限界となっている。	下関市
小売業	組合の専用商品「キリョウ」等の販売に力を入れており、この商品が組合員の経営の助けになる販売量となるよう努力している。	化粧品小売業
	5月は、特に変化がない。	中古品小売業
	街づくり会社「まちあい徳山」主催事業への参加等青年部活動が増えている。人的パワーに限りがあり、他の団体等の参加により、商業地の活性化を推進している。	周南市
	東日本大震災の影響は、3月中旬以降から4月まで続いたが、5月に入り前年の水準に回復している。	山口市
	競合店の影響と、東日本大震災後からの「買い控え傾向」により売上減少。	下関市
	東日本大震災の影響とは関係なく、全体的な売上	長門市

	及び客数の減少傾向が続いている。	
商店街	GWの「萩焼祭り」は昨年を少し下回った模様。商店街の通行量も日々減少しているように感じている。10年先の人口減少、今秋オープンの大型店（マックスバリュ）を考えると、早急な対策が必要。	萩市
	4月に隣接商店街の商業跡地に中型食料品店がオープン。郊外大型店占有比率が80%を越す山口では戦法を変えなければ、山口市民や来街者への存在アピールにはならない。このオープンより約一週間後に、北海道産品の店「どさんこさん」を当組合の自力でオープンした。20坪ではあるが、存在感のある店となった。	山口市
サービス業	5月の連休後客足も少なく、東日本大震災の自粛ムードの影響もあり、前年度より美容業は厳しい経営を余儀なくされている。早くこのムードが払拭されるよう願っている。組合内で義援金を集め全国美容組合に送金をしたが、3か月後にはもう一度取り纏め送金の予定。	美容業
	東日本大震災で、以前にも増して組合の団結力が強くなり、相互扶助の精神が再認識されると思う。ピンチの中にも良い変化を期待したいので、被災地を支援し続けていく。	理容業
	東日本大震災の影響により、新車の製造が大幅に落ち込み、新車登録台数は対前年比登録車マイナス56.0%、軽マイナス37.1%。新車を購入しても納車が大幅に遅れていることから、納車が車検に間に合わないケースも発生している。	自動車整備業
	東日本大震災の影響により、一部商品が中々入ってこないが、その他の商品に関しては回復している。取引に関しては、先月同様、自動車販売が低調なので、引き続き商品販売・自動車修理ともに厳しい。	
	状況は、先月とあまり変わっていない。ただ、システム開発案件は閉塞感が否めず、システム技術者派遣は、数・価格ともに非常に厳しい状況にある。震災前から状況はよくなかったので、震災後においてもよくない状況を継続しているといった感じである。今期以降の見通しは、非常に厳しいと考えている。	情報サービス業
	旅館業はインターネットでの客室販売にさらに注力し始めており、特に県の中央部でその傾向が強いように思われる。国体に向けてホームページの	

	刷新等の需要が出そうな気配である。	
	今年度中に組合員が1人減少する。活性化に取り組む元気と余力のある組合が理想だが、現実は大変厳しい。	屋外広告業
	前半のゴールデンウィークはやや持ち直し感があったが、中盤は反動で震災前の悪い状況に戻り、後半、食材の値上げが始まり先行不安が現実味を帯びてきた。しばらくは、営業にも厭倦感が漂うと思われるので、一刻も早い、景気浮揚策の対応を望む。対前年比では悪いまま変化はない。	飲食業
	組合員によって異なるが、対前年同月比で15～19%増加(宿泊客数)がある一方で、▲27～▲44%と減少した宿もある。積極的に(価格も下げる等)営業展開してる宿とそうでない(しようにも出来ない)宿との差が出てきている。全体としては対前年同月比91%と良くない状況。	旅館業 萩市
	ゴールデン・ウィークは、好況であったが、その後観光客の入りが悪い。湯田は国体に向けての大会が入っているので、人数ベースでは前年度と比べても多少の落ち込みで済むと思うが、全国的にまだまだ低調である。	旅館業 山口市
	生活不安で、費用を出さずに楽しむ層が増え、宿泊に繋がらない。旅行会社も低価格とする等、工夫をしなければ、集客に繋がらない。宿泊地には低価格志向の影響が大きいのしかかっている。雇用の確保のため、「収益の確保」を最優先に努力を重ねているが、悪化の傾向である。	旅館業 下関市
建設業	仕事量が大変少なく、あっても相見積りのみで契約までにはなかなか至っていない様子。仲間同士で仕事を廻している状況は変わっていない。	鉄骨工事業
	中電への工事申請5月376件(当支部分317件)前年同月184件(同159件)。山口市助成金によりLED街路灯への切替申請が約250件あるが、工事金額としては少額である。4月21日～5月20日の太陽光発電への申請10件と4月よりの買取条件低下に伴い申請が激減。オール電化申請も14件と通常月より5割程度減少した。	電気工事業
	東部地区の一部では公共工事が出つつあるが、他県のゼネコンの受注が多いので地域にプラスになっているか疑問。東日本大震災の影響で、材料などの入荷予定日よりの遅れが鮮明になってきた。	左官工事業

	前年度からの繰り越し公共工事を保留している企業が例年に比べ少なく、繰り越し工事の無い企業は全く工事受注の無い状況が続いている。民間工事は、発注の引き合いはあるが、採算割れが多く受注に至っていない。	土木工事業 柳井市
	国の補助金が確定しない為か、現在、公共工事の発注はきわめて少なく、公共機関の平成23年度は発注見通しの公表も極めて少ない。	土木工事業 岩国市
	23年5月の受注高は、対前年同月比22%。今年度の累計は、対前年比127%。	土木工事業 萩市
	東日本大震災の影響か、公共工事の発注が遅れているように思われる。このままだと景気に影響が出かねない。	管工事
運輸業	<p>輸送関係：東北方面への出荷量は少ないものの関東以西への物流は増加しつつあるが、5月の大型連休に加え東日本大震災の影響で本来の稼働率には戻っていない。鉄鋼素材等の流通は、やや上向いており、輸出は横ばいである。一般生活用品等は、買い控え傾向が続いており輸送量はやや減少している。</p> <p>油関係：2.8円の値上げ。価格の変動が激しく、運送業者の経営への圧迫度が高くなって来ている。前年対比で収益・輸送量とも約24%減少している。</p>	一般貨物自動車運送業 下松市
	燃料費が値上がり、4月中の軽油価格：1ℓあたり、インタンク（タンクローリー配送で運輸会社の備蓄分）価格112～115円であった。5月20日頃軽油2～3円の値下げの通告があった。平成22年度決算は、当組合、発足以来の最低の利益であった。東日本大震災の影響で仕事量も少なく、ETC利用も少なく、組合保管庫の使用も半減。平成23年度も見通しは悪いが、一致団結することを総会で確認した。	一般貨物自動車運送業 下関市
	5月に入り自動車関連企業の稼働は高まってきた。しかし、あくまで在庫部品による稼働によるもので、部品の調達困難は依然としてあり、6月以降の推移については不透明である。燃料価格は依然と高水準に推移しており、前年比では19%の値上がりとなっている。	一般貨物自動車運送業 防府市
	売上高は前年同月比では増えてはいるのだが、薄利多売の影響から今までの経験からいけば「この位の売上があればこの程度の利益が・・・。」という経験則が当てはまらなくなった。	一般貨物自動車運送業 宇部市

	<p>給油量から見る操業度の状況は、対前年同月比で87.4%と約13ポイントの大幅ダウンとなった。この要因は、萩・三隅道路も終盤となり、この関係の会社合計の給油量が対前年同月比で82.6%と約17ポイントのダウンとなった為。一方の油価格は先月からは0.5円アップの微増で110.5%ですが、対前年同月比では15.0円と大幅アップの状況。</p>	<p>一般貨物自動車運送業 萩市</p>
	<p>タクシーチケットの取扱い金額は、前年比▲7.0%（4月1日～5月20日分）。5月1日～20日分については▲4.1%の減少。5月になって若干減少幅が縮小される傾向にあるが、まだまだ回復傾向とは言えない状況。</p> <p>10月の山口国体開催に向け、準備・協議等が進んでいる。宿泊施設等も同様と思われるが、一時的に集中するため、早朝の輸送能力等に不安があるが、山口県の大イベントとして、円滑な運営に協力したいと思っている。</p> <p>燃料のLPGについては、CP（通告価格）と為替に連動して変動するが、昨年と比べ5～8%高値状態にあり、各事業者の経営に悪影響を与えている。</p> <p>震災復興や山口国体が契機となり、本格的な景気回復につながる事が、大いに期待される。</p>	<p>一般旅客自動車運送業</p>